

一般社団法人香川県設備設計事務所協会  
創立 30 周年記念講演会

みんなでECO(エコ)を考えよう！

とき 2010.11.18 15:30～17:00

ところ サンポートホール高松 第一小ホール

会長挨拶

会長

高木 俊幸

みなさんこんにちは。今日は昼の時間帯にも関わらずたくさんの方にお出でいただきありがとうございます。また、我々の仲間でもあります他県の県協会の方には、午前中からの会議で大変お疲れとは思いますが、これからは楽しいお話になると思いますのでお聞きください。



今日はどちらかというと業界の方が多いと思いますが、できるだけ一般の方も含めた方に理解していただけるような、ECO(エコ)の活動とか、どうやれば省エネルギーに繋がるか。将来は自分たちの子どもや孫たちにどんな地球を残していくのか。そういうことが考えられる内容になればと思い企画しました。

協会創立 30 周年ということもあり、高畑淳子さんに来ていただくことになりました。先ほどお迎えにあがって少しお話をさせていただきましたが、とても気さくな方なので、お話がいろんな方向にいくかもわかりませんが、そのへんをお楽しみいただきながらECO(エコ)のことについて考えていただければと思います。

今日はどうぞよろしく願いいたします、ありがとうございました。

## 第一部 トークショー

### 「私のエコ活動」

講師 高畑 淳子(女優)

聞き手 宮宇地 美穂

宮宇地 それでは「第一部高畑淳子トークショー」に移らせていただきます。ここで簡単ではございますが、プロフィールをご紹介させていただきます。高畑淳子さんは香川県のご出身で、桐朋学園短期大学演劇専攻科卒業後、劇団青年座に入団され、現在も所属されています。2003年には「越路吹雪物語」の岩谷時子役で第29回菊田一夫演劇賞を受賞なさいました。その後、テレビドラマ「三年B組金八先生」や「白い巨塔」などに出演され、端正な顔立ちと、舞台上で磨いた演技力でさらなる人気を集めております。また、近年では演技の世界以外でも、ざっくばらんなトークでバラエティ番組にも数多く出演なさっています。舞台上にテレビに大忙しの高畑さんでございますが、プライベート



トでは二児の母として仕事と家庭を両立されています。とてもパワフルなお母さまでいらっしゃいます。私も先ほど、打ち合わせでご挨拶をさせていただいたのですが、本当に素敵なお方だと見とれてしまいました。それでは準備ができたようでございます。ご登場いただきましょう。みなさま拍手でお迎えください。女優高畑淳子さんです。よろしくお願いいたします。

高畑 よろしくお願いたします。

宮宇地 早速ですが、初対面で高畑さんにお会いしたときに、美しいと思ってしまったのですが、間近で見るとより一層お美しいですね。第一印象でそう思ったのですが。

高畑 遠目では結構いけるのですが、近くはほんとにボロボロです。

宮宇地 そんなことはありません。今日は高畑さんのお話を聞きたいと思っていらっしゃった方が多いと思うのですが、よろしくお願いたします。では早速ですが、高畑さんは香川県ご出身ということで……。

高畑 はい。善通寺で生まれました。

宮宇地 そうですね。やはり馴染みが深いと思うのですが、よく高松には帰省されたりす

るのでしょうか。

**高畑** いえ、三条に家があったのですが、もうないんですね。でもそんな関係からか同級生から“お前ちょっと来てくれや、”と言ってくれるので、それがこっちにお伺いできる楽しみなんですね。ですから年に2、3回は来ているような気がします。

**宮宇地** お忙しいのに年に2回も3回も。

**高畑** そうなんですね。ちょっと来てくれやが多いんですね。

**宮宇地** なるほど。そうすると学生時代の方たちとも交流があるわけですね。

**高畑** 今年56歳になりますが、そういうことをやるような年代に私の同級生がなっているのではないかなと思います。それでよくわからないまま、私で行くわということなんですが、一番怖かったのは「川を考えるフォーラム」の基調講演をよくわからないまま受けてしまって、壇上で絶句した苦い思い出があります。今日はエコのことですが、私たちの仕事はなかなかそういうことを考える時間がないので、それはみなさまも同じだと思うんですね。ですから何かのときにちょっと足を止めて考えるいい機会になるので、当たって砕けてもいいから、とにかく自分と違う世界に顔を突っ込むという気持ちで来ています。



**宮宇地** ありがとうございます。後ほどエコについてはお話を一緒に伺ってきたいのですが、トークショーではやはり高畑さんの気になるいろんなことをお伺いしたいのですが。高畑さんは同級生の方と交流があるということですが、『ほっこまい高松純情シネマ』に友情出演ということですね。

**高畑** そうです。私の出ました学校は堅い人が多くて大体県庁とかの土木課だとかが多いのですが、ときどき私のような堅気でない世界に足を突っ込んだ人間がおりまして、高島君と言いますが、彼が映画を作ったんでね。映画というのは時間と経費がかかるものですから大赤字で、どこへ行くにもこれを持たされてDVDを売らされていますが、まだ借金が返せていない状態なんですね。

宮宇地 そうですか。でもそうやって昔からのお友達をずっと大切にされているというのも高畑さんの魅力ではないでしょうか。

高畑 そうですか。これも高松でロケをして、ロケ現場に行くと同級生がいっぱい集まっ



ていて、お弁当の注文とか、後は頼まれてもいないのに方言指導とか、主演の男性の方はあっちからもこっちからも「あんたの方言ちょっと違うわ、もういっぺん言うてんまい」で、可哀想だなという状況で撮っていましたが、私もちょっと出させていただきました。

宮宇地 なるほど。みなさんもよかったらご覧下さいね。ちなみに高松に帰省されたらどこか立ち寄るところとか、お好きなところはありますか。

高畑 空港のうどん屋には必ず寄りますね。朝一番で東京を出て、こちらで仕事をして最終で帰ることが多いのですが、東京にも美味しいうどん屋はありますが、やっぱりどうしてもうどんを食べてどうしても帰りたいものですから、時間などの関係で空港で食べて帰ります。それからソフトクリームですね。

宮宇地 ソフトクリームというのは？

高畑 昔はあずま屋のうどんとアイスが最高のご馳走だったので、できれば行きたいのですが……。

宮宇地 いわゆるうどんとソフトクリームは思い出の味ということなんですね。もしかしたら空港の近くのうどん屋さんに行ったら、高畑さんがいらっしゃることが年に1、2回ぐらいはあるかもしれないということですね。

高畑 そうですね。うどんを食べてソフトクリームをですね。

宮宇地 やはりここが原点だと思うのですが、思い立って女優になろうということで現在あると思うのですが、女優活動について少し伺っていきたいと思います。演劇の世界に入ったきっかけは、なぜ思い立ったのですか。

高畑 なぜですかね。思春期というのは、私も今17歳の荒れ狂う思春期の息子を持っておりますが、ちょっとおかしくなっている状態だと言ってもいいんじゃないかと思えますよね。何というんでしょうか、自分がわからなくなったり持て余したり、何か抱えているものがあつたんだと思えますね。それまではわりといい子だったので、爆発しそうだったんじゃないかなと思えますね。このまま大学へ行って先生になるのかなあ〜。別に勉強に興味はないけれど、でも負けず嫌いなのでテストではいい点を取りたいから一応やるのですが、それに興味がない。どうしたらいいんだろうというところからパッと出たんでしょうね。もしバイオリンとかができたらバイオリンでもよかったというとおかしいのですが、音楽など他にできることがあつたらそれも選択肢としてあつたんでしょうが、やっぱり臆病なので一応その関係の大学に入り、そこからやっっていこうと思ったときに、選択肢として残ったのが絵も描けない、デッサンもできないので美術学校が受けられなくて、その中で唯一受けられたのが演劇学校だったような気がします。



宮宇地 なるほど。とにかく何かエネルギーが、どこかにぶつきたいという思いがとてもあつたんですね。

高畑 そうですね。それから今は楽になりましたが、若い頃は人前に出ていい子でいなければならないというのでしょうか、学校教育のいいところと悪いところだと思うのですが、人の前ではこうしなければいけないとか、その縛りが苦しかった記憶もありますね。だから人の前で自由に喋れない。一体、本当の自分は何を考えているんだろうということを篩（ふるい）いにかけてたいというか、自分から何かを考えた記憶が全くなかったと思います。

宮宇地 そういう思いで飛び出されて上京されたわけですが、演劇の世界に入って、こういうところは苦勞したとか、失敗したということは振り返るとおありですか。

高畑 そうですね。失敗というよりも自分の中に核がなかったような気がしますね。ですから、その頃のことを思い出すとある意味、顔もすごく綺麗だったと思うんですね。お肌もピンとしていましたし、パーッとしていましたから、いけてると思っていたのですが、お腹の中が空っぽだった気がしますね。だからどういう芝居をやりたいのか、そういうものがなくて、聞かれても何も答えられないわけです。中身を埋めたくて入ってい

るから、それも仕方がないことなのでしょうが、中がなかったことが失敗よりも何よりも苦しかったですね。台詞をどうかとか、方法論ばかりになっていましたね。

**宮宇地** なるほど。葛藤もおありだったでしょうし、模索もされていたと思うのですが、何か転機になるような舞台か何かがあったのでしょうか。

**高畑** 桐朋学園という演劇の大学に入ったのですが、21歳で東京のあらゆる劇団を受けて全部すべって、一つだけ受かったのが青年座というところで、そこに入団したのです



が、それから動物の役ばかりが多くて、犬とか手とかカエルとか、そういうのはわりと面白がっていただけるのですが、人間をやるとことごとく不評で、30歳になって母から、「需要と供給のバランスが成立せんかったら帰ってきい。お母さん嫁入口を探すわ、ということで、30やなと思っていたときに、ふたり芝居の『セイムタイム・ネクストイヤー』の作品で変

わったように思いますね。劇場はお祭り空間なんだよって、この台本は君のおモチャなんだよって、どうして生真面目に芝居をするの。君が生きていることをお客さんは楽しみに来るんだよって、つかこうへい事務所のスターだった加藤健一さんという方が、スカンと言ってくれて、もっと自由になりなというんでしょうか。実に欠落した人間で、お互いに家庭を持っているのに、浮気をして1年に1回同じ場所で会い続けましょうという、大人のラブストーリーなんですけど、どんなに会いたくても1年に1回、会えない状況でも1年に1回は来るという話の芝居でしたが、その作品で認めてもらったんでしょうね。丁度、日本もバブル時期で劇場がたくさん建っている頃に初めてプロデュース公演に呼んでいただけるきっかけになったのもその作品ですね。

**宮宇地** そうですか。それがきっかけで今は本当に引っ張りだこかと思うのですが、バラエティの番組でも高畑さんをよくお見かけすることがあるのですが、どういった面が本当の高畑さんなのか、いろんな顔をお持ちなんだなと思うのですが。全てに力を入れていらっしゃるとは思いますが、ちなみに現在はどんな活動をされているのでしょうか。舞台とか。

**高畑** 仕事ですか。舞台はこの秋に『パルジョイ』という舞台が1本終わったのですが、お昼のドラマと、今撮っているのはお正月の『味いちもんめ』ですが、記者会見で「頭が真っ白になったと言いなさい」と言った女将さんの役をやらせていただいています。息子に「私は知らんと言いなさい」という記者会見から始まるお正月ドラマを撮っていま

す。それから『意地悪ばあさん』で、市原悦子さんが演じるのですが、そういうドラマとか、『三丁目の夕日』を映画で撮ったりします。

**宮宇地** 女優さんですから、役ごとにそれぞれ違う面が見えるのは当たり前なんですが、プライベートでは二人のお子さんを持つお母さまでいらっしゃるということですが、お子さんから見た高畑さんはどんなお母さんなんでしょうね。



**高畑** これは聞いてみないとわからないのですが、子どもが言うのには喜怒哀楽が激しい。泣いているかと思ったら笑う、そして怒ったり…と、とにかく火縄銃みたいだと言いますね。やっぱり女優さんは激しいと思いますよ。だって今泣けとか、笑えとか言われるんですから、そういう瞬発力をつけるしかないのです。カッと気持ちがいっっちゃうんだと思いますね。よく言うのはニクロム線をいつも剥いたような状態にいるので、一緒に暮らすには不適合でしょうね。二度の失敗もしようがないという感じですかね。一緒に暮らすには進められないですね。

**宮宇地** 私からすれば二度も結婚できるなんて素敵だなと、個人的に羨ましいなと思ってしまうのですが。独身としては。

**高畑** 今、お幾つでいらっしゃるの。

**宮宇地** 35です。高畑さんはお子さんが二人いらっしゃって、娘さんが同じ道に進まれたんですよ。お母さまとしてはどういうお気持ちですか。

**高畑** そうですね、はじめは先生になると言っていたのですが、受験に失敗して、でも大学生活も経験していればいいということで、日大芸術科というところにお世話になったのですが、あんまり芝居が下手くそ、下手くそと言われているうちに頭に来て、女優になると本人は言っていますが、来たか、困ったなと思いました。好きなことを止めるわけにはいかないの見守っていますが、でも上の子はちょっとしっかりしているので、あまり心配はしていないんですね。駄目でも女優業をやったことによって得たものを別のところで生かせると思いますので。お芝居がいいんですよ。先生になる人も営業マンになる人もみんな演劇学校に行ったらいいんじゃないかと思うぐらい芝居は自分を解放し、自分が今どういう状態かを受け入れざるを得ないですから、吾が身を知ることではとてもいいんですね。ですからみなさん桐朋学園に入られたらいいと思いますよ。嫁入り修行で行くのもいいと思いますね。

宮宇地 ということは、仕事に繋がるとか繋がらないではなくて、演劇を通じて自分を解放していくという……。

高畑 そうですね。解放もそうですし、自分のことって見えないから、自分のことを知るというのは素晴らしいですよ。謙虚にもなりますしね。

宮宇地 そういった意味で娘さんのことも母の立場としても応援されているような……。

高畑 そうですね。

宮宇地 それからもう一人のお子さん、息子さんがいらっしゃいますが。

高畑 息子のことを話すと3時間ぐらいかかるほど心配なんですけど、やりたいと言っていますね。止められないですね。

宮宇地 息子さんも演劇の道に？

高畑 そうです。役者になるんだと言っています。家で、スッピンで汚らしいおばあさんが、ご飯を作ったり床掃除をしている、この人でさえ女優ができるんだから、誰だってできるんじゃないかと思ってるんじゃないですか。



宮宇地 そういうことはないと思いますが、私もテレビで拝見して本当にエコだなと思ったのは、自転車で活動されていらっしゃったり、ノーメイクで汗をタラタラ垂らしながらお掃除をされていたり、とてもざっくばらんと言いますか……。

高畑 それは違いますよ。私も違う生活様式をしたかったのですが、時間がない中で女優業と家のことをやるためには何をくっつければいいのかということになると、そういう方法論になっただけのことで、他人から見たらああいうことをしなくてもと思うのではないかと思うのですが、体も鍛えたい。家もちゃんとしたい。子どもには安全なものを食べさせたい。いろんなことを集約するとああいいう生活様式になったんだと思うんですね。

宮宇地 ちなみに今回はエコがテーマですが、高畑さんの身近なエコ活動といただけますか、

こういうことを心がけているというようなことはありますか。

高畑 いっぱいありますね。夏はクーラーを付けないんです。

宮宇地 えっ、今年の夏は35度ぐらいありましたが。

高畑 ダラダラ汗が出るのですが、汗をかくのに勝る美容法はないと聞いてから、いざとなったらサウナスーツを着て納戸の掃除とかをします。

宮宇地 息子さんとかは大丈夫なんですか。

高畑 息子は駄目ですね。ガンガン冷やしていますよ。

宮宇地 他には何かありますか。

高畑 これは助成金が出るのですが、有機ゴミになるリサイクラーをお庭に置いて生ゴミは全部そこに持って行っています。ただとても手間がかかるんですね。お料理をするときに生ゴミだけを溜めて、それをお庭まで持って行って1週間に1度出します。それからキャップはワクチンが買えるというので集めます。私が住んでいる西東京市ではプラを分別しなければいけないのですが、ゴミの8割はプラですね。

宮宇地 たしかに多いですね。



ています。

高畑 プラを分別するのは本当に大変なんですね。納豆を1個たべてもちゃんと洗ってプラだけ出さなければいけなんですね。あんなにしんどい思いをして出しているのに、どうもそれがリサイクルされていないという報道を聞いたりすると、何だろうなと思ったりしますね。そんなにエコ、エコといっているわけではありませんが、できる範囲でやっ

宮宇地 お話を聞いているとエコ活動、普段からできることをされているんだなという気がするのですが。

**高畑** 私はこちらの出身ですが、水がとにかくないじゃないですか。夏の水のなさとか、そういう意味では水に関することは気になりますね。

**宮宇地** そういうことも含めて、後ほどエコについて考えようということでパネルディスカッションに参加していただきますが、最後に高畑さんが、こういうときに幸せを感じるなというときはどんなときですか。

**高畑** 私の家の近くに踏み切りがあるんですが、私は普段バタバタと暮らしているのであまり立ち止まるということがないんですが、その踏み切りは開かずの踏み切りで、よく開かないんですね。バタバタと自転車で夕飯の買物に行かなきゃいけないんですが、その電車を待っているときに夕焼けが見えるんですね。そうすると、今日はみんなで食卓が囲めるんだ。自分の作ったものをみんなが食べてくれるんだなと思うと、その夕焼けの匂いが、今帰って来ている故郷の匂いに似ているんですね。住んでいるところも高松ぐらいの感じのところで、そのときにえもいわれぬ幸せで、ただ生きているだけで有難いって思えるんですね。その踏み切りで止まるときが一番好きですね。みなさん忙しいからなかなか立ち止まることってないと思うんですね。ですから今日みたいなときにもちょっと立ち止まって考えるというのでしょうか。私はそういう時間が一番幸せだなと思います。

**宮宇地** 立ち止まることが大切だということは普段の生活ではなかなか……。



**高畑** この瀬戸内海の海も、私はここから出た人間ですが、ここにいるときにはこんなに綺麗だとは思いませんでしたが、離れて見ると本当に綺麗だなと思いますね。だからちょっと離れて見て、何でもないときにとっても有難いなと、この世にポロッと出て来られてよかったんだなと。生まれてよかったなっつ

くづく思いますね。

**宮宇地** 高畑さんが、地元のこと、香川のことがとても好きなんだなということを、お話をしているととても感じました。高畑さんとお話をしているとまだまだ、3時間、4時間とお話が続きそうですが、時間が限られておりますので、後ほどのパネルディスカッションでいろいろとお話をお伺いできればと思います。短い時間でしたがありがとうございました。

高畑 ありがとうございました。

宮宇地 ありがとうございました。高畑淳子さんでした。みなさま拍手でお送りください。